

# 乳がん高度検診・治療センター

## NEW—す No.112

### 「遺伝性乳がん卵巣がん」に対するリスク低減手術

当院でも受けていただけます!! その1

#### リスク低減手術って何?

あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、「がんを発症する危険性を減らす手術」のことをリスク低減手術と呼びます。2013年5月に女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが乳がんになる前に両方の乳房を切除したことを告白され、世界中に大きな衝撃が走ったことを記憶しておられる方も多いと思います。彼女の家系は「遺伝性乳がん卵巣がん」家系で、母親からその原因となる遺伝子変異を受け継いだことがわかり大きな決断をされました。このニュースがきっかけとなって、世界中で「遺伝性乳がん卵巣がん」に対する関心が高まり、遺伝学的検査やリスク低減手術を受ける女性が増えたことから「アンジェリーナ効果」と呼ばれました。日本でもこのニュースの後から「遺伝性乳がん卵巣がん」に関する臨床研究が急速に進み、2020年の4月から、「遺伝性乳がん卵巣がん」が疑われる乳がんまたは卵巣がんの患者さんに対する遺伝学的検査(遺伝子の塩基配列に異常がないかを調べる検査)が健康保険で認められ、「遺伝性乳がん卵巣がん」と診断された場合はリスク低減手術にも健康保険が適用されるようになっていきます。

#### 「遺伝性乳がん卵巣がん」とは?

乳がんの約4%、卵巣がんの約10%はBRCA1もしくはBRCA2遺伝子の病的バリエーション(疾患を発症する原因となる遺伝子配列の変化)が原因で発症するとされ、「遺伝性乳がん卵巣がん」(症候群)と呼ばれています。BRCA1/BRCA2病的バリエーションの保持者が一生の間に悪性腫瘍を発症する確率は乳がんが約50-70%、卵巣がんが約20-40%、前立腺がんが約20-60%、膵がんが約1-5%で、非保持者の数倍から十倍以上のリスクになります。最近では胆管がんや胃がん、食道がんなどの発症リスクも上昇するとの報告もあります。もし両親のいずれかがこの病的バリエーションを持っていると、その子供たちはそれぞれ50%の確率で受け継ぎます。したがって血縁者の中に、乳がん、卵巣がん、膵がん、前立腺がんの方が複数名おられる場合は注意が必要です。「遺伝性乳がん卵巣がん」かどうかを調べるにはBRCA1/BRCA2遺伝子に対する遺伝学的検査を行います。表1(次頁)の条件に該当する方は健康保険で検査を受けることができます。数mlの血液で検査が可能で、3-4週間で結果が出ます。

リスク低減手術は受けたほうがいいの?

「遺伝性乳がん卵巣がん」のリスク低減手術には以下の3つがあります。対象となる方や推奨の度合い、手術のタイミングや後遺症などがそれぞれ異なりますので、事前に十分にご相談をさせていただく必要があります。また、確実性は劣りますがリスク低減手術を受けずにがん検診をこまめに受けるという選択肢もあります。当院では、毎週水曜午後にご遺伝カウンセリング外来を設けておりますので、「遺伝性乳がん卵巣がん」やリスク低減手術についてお知りになりたい方、相談をご希望の方はお申し込みください。

# 乳がん高度検診・治療センター

## NEW—す No.112

### 「遺伝性乳がん卵巣がん」に対するリスク低減手術

当院でも受けていただけます!! その2

#### リスク低減の手術

対象となる方、推奨の度合い

①

#### リスク低減対側乳房切除と乳房再建

**乳がんを発症された方が対象**となります。乳がんになっていない反対側の乳房を切除する手術で、乳がんの手術をこれから受ける方は、両側を同時に手術することが可能です。

ご希望によってインプラントによる両側乳房再建も行います。過去に乳房温存手術を受けられた方は、温存乳房と対側乳房の両方を同時に切除します。いずれの手術も健康保険が適用されます。

新たな乳がん発症が激減することは証明されています。しかし生存率が改善したとする報告があるものの、同時に施行された卵巣切除の影響が否定できないためガイドラインでは「**弱く推奨**」とされています。

②

#### リスク低減両側乳房切除と乳房再建

**乳がん未発症の方が対象**となります。両側乳房切除（もしくは両側皮下乳腺全切除）を行います。ご希望によりインプラントによる乳房再建も可能ですが、乳房切除、乳房再建とも健康保険の適用がなく自費診療になります。卵巣がん・卵管がん・腹膜がんを発症された方は、乳がん未発症でも健康保険が適用されます。新たな乳がん発症が激減することは証明されていますが、生存率の改善に関するデータが十分でないためガイドラインでは「**弱く推奨**」とされています。

③

#### リスク低減卵管卵巣切除

両側の卵巣、卵管を切除する手術で、体への負担が少ない腹腔鏡手術が多く行われています。乳がんを発症された方には健康保険が適用されますが、いずれのがんも未発症の方は自費になります。卵巣がんは早期発見が難しく、リスク低減卵管卵巣切除により生存率が改善することが証明されていることから、ガイドラインでは「**強く推奨**」となっています。

#### 表1. 健康保険で遺伝子検査を受けることができる方

・卵巣がん、卵管がん、腹膜がんのいずれかを発症した方  
・乳がんを発症した方のうち、以下のいずれかの項目に当てはまる方

- ① 45歳以下で発症
- ② 60歳以下で発症したトリプルネガティブ乳がん
- ③ 2個以上の原発乳がん発症（両側乳がんもしくは片側多発乳がん）
- ④ 第3度近親者内\*に乳がん、卵巣がん、膵がんを発症した方がいる
- ⑤ 男性乳がん
- ⑥ 血縁者にBRCA1/BRCA2遺伝子の病的バリエーション保持者がいる  
\*親、兄弟姉妹、子、祖父母、おじ・おば、甥・姪、孫、いとこ、曾祖父母、大おじ・おば、甥・姪の子、曾孫（ひ孫）

がんに関するご相談は、どなたでも無料でご相談受けていただける「がん相談支援室」を設けています。遠慮なくお声かけください。